

見た目は元気そうだった。1年以上前から脱力感があり、疲れを強く感じていると言う。汗が熱くもないのに出る。3つの病院で検査を受けたが、異常なし。以前は浜名湖1周を自転車で回ることができたし、浜松市内をどこでも自転車で動き回っていたようであるが、それができないと言う。その他、便通不順(ガス多い)を苦にしていた。

考えられる原因らしきものは二つあった。一つは、数年前にある炎症に対して抗生剤を1年近く飲み続けていたこと。これにより、腸内の菌叢の状態を悪化させていることが、便通不順や栄養吸収等に大きく影響しているのではないかと考えられた。

もう一つは、ローフードダイエット Raw food diet という食事をしていること。これは生食で酵素を壊さない様に取り入れるという食事法のようなものである。肉類を食べない代わりに、刺身をよく食べ、その他生食できるものを食べている。私たちの通常の食事とはかなり異なっていた。生食によって、消化吸収能力が落ちたり、食事に偏りが出たりして、栄養失調を起こしているのではないかと考えられた。実際、治療を始めて、半年程経った頃に患者は毛髪を使った栄養検査を行っているが、いくつかのミネラルで正常下限値に近いものがあつた。

さて、診ると、胸下部は滞って熱がややあり、ミゾオチは痞え、お腹はガスが多く、腹直筋が拘攣し、張っていた。下腹はやや実である。背中は筋張っていて鍼が入らない。最も異常感を感じたのは、左脈の脈状である。ふわっと軽い脈で波打たず軟らかだが血液量が多い為太い。

また、治療の途中で血毒症状として足首痛が出たり、アカギレが手指に出たりした。また舌下静脈が黒っぽくはつきりとし、時々、背や臀

部から血毒からの邪気が感じられた。

私の治療としては、血毒からの邪気の放射が強い時には刺絡(少し血を出す)し、鍼の入らない背部についてはお灸をした。また、ミゾオチの痞えを目標に人参湯、瘀血症状・便通不順を目標に桂枝茯苓丸を勧め、便秘した時には麻子仁丸を飲むよう勧め、最初の頃に患者は飲んでいた。

なかなか改善せず、患者も治療を中止しようとしたことが何度かあつた。また並行して、病院に行ったり、別の治療院に行ったりしていたが、ここでの治療は継続してくれた。

ある大病院では、PETを受け、異常がなく、慢性疲労症候群と診断された。抗鬱剤を勧められたが、断ると、漢方薬の補中益気湯を勧められている。また、漢方薬店では十全大補湯を勧められている。いずれも「虚労」の訴えからの単純な選薬であることが想像できる。

半年経っても、余り改善しないので、食事指導を行った。一物全体食を取り入れた食事として、煮干をダシとした味噌汁や玄米食など、また腸内環境改善の為に発酵食品を勧めた。刺身の過剰摂取は血毒をもたらすと注意した。その結果、患者の食事は次第に変わっていった。

下腹の瘀血による便通不順、抗生剤の長期服用による胃腸の機能低下、特殊な食事による栄養不足、長い不調が患者に作用しての精神的ストレス等が複合的に作用して、患者の病態を作り出していたのだと思う。

なかなか明確な治療成果は現れなかったが、2年近く経って、これまでバスで45分かけて通院して来ていた同じ道のを、自転車で来るようになった。お腹の拘攣は減り、背も鍼が入るようになった。左脈もふわっとした脈ではなくなった。(2014年5月小満)